

2013年度「未成年者飲酒予防基金」活動報告

『ライフスキル教育推進実行委員会』 セルフエスティームの育成と飲酒防止

1 はじめに

誠之中学校区は、商業施設や娯楽施設等が多くみられる地域にあり、危険行動への誘惑も少なくない。喫煙飲酒をはじめとする反社会的な問題行動、学級の荒れ、学力不振、不登校等の様々な課題を抱えている。

課題解決に向け、2009年度より誠之中学校を中心に小中4校が連携して、セルフエスティーム（健全な自尊心）を育成するためのライフスキル教育に取組んできた。喫煙や飲酒については、それぞれの学校で児童生徒の発達段階に応じて様々な取組みを行ってきたが、特に飲酒予防については「未成年者飲酒予防基金」事業を通して、4校が連携して取り組んできた。その内容について報告する。

2 研究目的

中学校1校、小学校3校が連携して計画的、継続的にライフスキル教育に取り組むことで、子どもたち一人一人のセルフエスティームを育成する。望ましい行動選択ができ、危険行動を回避できる実践力を身につけさせる。9年間の学校生活において、目標をもち、意欲的に取組む児童生徒の育成をめざす。

3 取組の概要

（1）実態調査

「青少年の生きる力と健康行動調査」（2013年2月実施）

2009年度より、セルフエスティームをはじめとする心の健康度や危険行動等についての調査を、福山市教育委員会が神戸大学に依頼して、中学校区4校で実施している。

「児童生徒・保護者に対する意識調査」

（児童生徒7月・12月、保護者7月実施）

誠之中学校区4校の小学校5・6年生児童と中学校全学年生徒、全校保護者を対象に調査を行った。

この調査において、30.9%の児童生徒が飲酒経験があると回答している。そのうちの36.2%の児童生徒は、父母を含む大人からすすめられている。また、児童生徒の飲酒の実態と保護者の認識には、大きな差があることが明らかとなった。

「児童生徒・保護者に対する意識調査」3年間の経年変化

（2）児童生徒への指導

セルフエスティーム（健全な自尊心）の育成



- 保健学習
- 薬物乱用防止教室
- 美術科指導
- 総合的な学習の時間
- 生徒間、小・中学校間での学び合い
- (3) 保護者への啓発
- (4) 職員研修
 - 校内研修
 - 4校合同研修
 - 校外研修会等への参加



4 成果と課題

アルコールの健康への影響に対する知識の有無について、毎年7月調査より12月調査の方が「害がある」と回答する児童生徒の割合が増えており、学習を通しての科学的知識理解が進んだ。

また、3年間の取組み経過から、大幅な意識変革はないがほぼ同じような傾向を示すことがわかり、繰り返し学習することの必要性を確認できた。さらにそのことによって、児童生徒の自己肯定感についても育成され、数年間にわたり県との差がプラス方向に開いていることが確認できた。

教職員が様々な研修を受ける機会を得て、飲酒予防やライフスキル教育に関する理論や授業実践を学ぶことができた。それによって、各校での指導法を工夫することができた。

保護者の意見として、「飲酒よりもタバコ」「学校では教えなくてよい」という意見もあるが、ライフスキル教育の内容に関連する肯定的なものや、親へも指導をといった意見が聞かれ、学校での取組みの広がりを実感できた。

誠之中学校区4校が、計画的に取組む体制が継続できている。

飲酒の誘いに対して断ることができる自信は、12月の調査結果のほうが低くなっている。学習の繰返しと、実践につなげるための指導法の工夫が必要である。最近1か月の飲酒経験率は、7月調査から12月調査へと微増している。飲酒経験については児童生徒の実態と保護者の認識に差があり、児童生徒への指導とともに、家庭や地域と連携した継続的な取組みの工夫が必要である。

5 おわりに

「未成年者飲酒予防基金」事業を通して、4校が連携を深め、意識統一して飲酒予防の取組みの推進を行ってきた。数値に表れる変化はわずかなものであるが、教職員や保護者の予防教育の必要性への理解は進んでいる。また、セルフエスティームの育成にもつながり、校区全体の落ち着きが見られるようになっている。

今後も継続して、飲酒を含めた危険行動の回避や正しい行動選択のために必要な

アサヒビール株式会社「未成年者飲酒予防基金」

スキルを身につけさせるために、ライフスキル教育を基盤としたセルフエスティームの育成をめざしていきたい。